



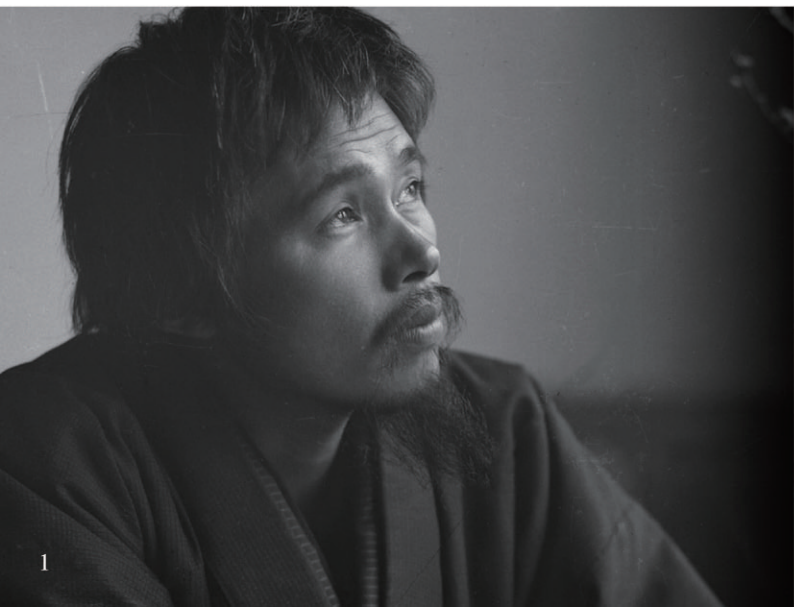
特集

# キャンパスの中の ミュージアム

長崎大学は学びの場であるだけでなく  
「知の貯蔵庫」でもあります。  
扉を押し開けて、古い飾り棚をそっとのぞいてみると——  
そこには思いもよらない本物の宝物が  
淡い光を放ちながら  
整然と並んでおりました。



Museums of the campus



CON  
長崎大学  
[チヨ-ホ-  
Choho  
Vol.37

本誌記事の  
係者が転載  
「長崎大学  
○号から」  
さい。学外  
に広報戦略  
絡願います



# 大学には、お宝が いっぱい

今、大学は「教える」から「自学自習」の場に変化しています。身近にある本物から何かを感じ取るためにキャンパスがまるごとミュージアムになったら…と夢がふくらみます。



Interview

## 姫野順一

長崎大学 附属図書館長

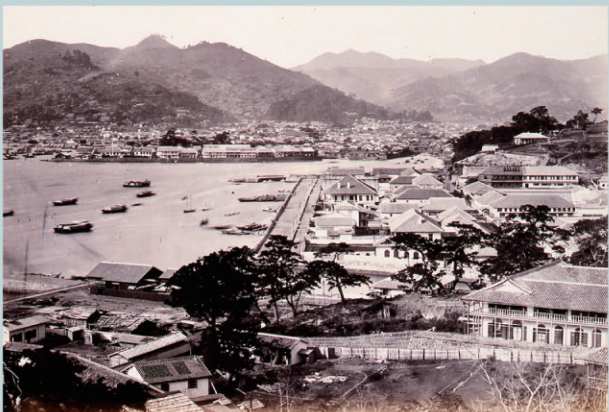
「大学ミュージアム構想」という言葉を聞いたことがありますか？ 大学を（知の集積地）と位置づけ、その貴重なコレクションを博物館のように展示して一般公開する——しばらく前、当時の文部省肝いりで進められたプロジェクトです。しかし国の予算で整備されたのは東京大学などいわゆる帝大系のみでした。一方、長崎大学にも貴重な資料が多く、その保存や活用は大きな課題となっています。これまでの経緯と大学ミュージアムの将来について、貴重な資料を管理している長崎大学附属図書館の姫野順一館長に、お話を伺いました。

折、一九八〇年代末でしたか、「ヨーロッパで収集された長崎を中心とする日本の古写真を買わないか」という話が上がったのです。約一三〇〇枚。長崎は写真発祥の地でもあるので、ぜひこれは欲しい！と。国の予算もついたので購入できました。それまで、古写真を体系的に収集しているところはなかったんですか？

「個人の趣味的なものばかりで、体系的な大きな規模では皆無でした。ところが買ってカタログ化を進めようとしたものの管理や整理の仕方がわからない。そこでライデン大学の専門家に聞いたところ、写真の保存で大切なのは、光、湿度、温度の徹底管理だという。ヨーロッパの乾いた気候が幸いして今まで残っていた写真が、湿度も湿度も高い日本に持ち込まれたわけですから、取り扱いには非常にデリケート。また電子データ化も勧められました。まだ九〇年代前半でしたが、これは東京の放送教育開発センター（当時）が大型コンピュータに取り込む事業として全面協力してくれました。九〇年代後半にはインターネットの時代をにらみながら「さらに先駆けていこう」と、国際発信するために解説の英訳に踏

み切り、高速画像伝送やより高精度な画像にする技術など、一つ一つ情報を集めてクリアしていったわけです。面白いですね！ 昔の写真の保存や活用に最先端のデジタル技術が使われている。

「はい。今度は写真の質を高め



幕末における、長崎大学の前身である「精得館」でボンへの次に学長となったボードインのコレクションのひとつ。大浦の外国人居留地の様子が鮮明に写し出されています。これらの古写真コレクションのウェブでのアクセス数は今年4月に200万件を突破。

たいと思っていた折、オランダ人ボードインの写真コレクションをご子孫から譲ってもらえるかもしれないという話が飛び込んできた。お金はあんまりないけれど、とにかくオランダに直接談判に行ってみようと、私も当時の館長の柴多一雄先生と出向

きました。熱意が通じたんでしよう、予想よりかなりすんなりと手に入り、今では国の登録有形文化財となりました。なんだか雪玉が転がってどんどん大きくなるような……。

「タイミングが良かったこともある。でも古写真自身が持つ力が大きかったのでは

はないでしょうか？」

「古写真の情報量は文字資料と比べてとても多い。歴史、地理、文化、芸術。古写真はまさに文理融合のタイムマシン、そのことに世界中の人々が気づいた。ですから今、うちの古写真コレクションは国内外からのアクセス数が飛躍的に伸びています。

今後は長崎で構築した技術やノウハウをフランスなど海外に提供していく話も進んでいます。3Dなどデジタル面での新しい展開も視野に入れていきたいですね。そもそも写真の専門スタッフが学内にいないことで、逆に専門の違う研究者と図書館員が情報共有しながらここまで来

ました」  
確かに、本来の枠組みにとられない新しい発想と飛躍が、コレクションの完成度を高めたといえそうです。  
「今、大学は『ティーチングからラーニングへ』と言われる始めている。『教える』よりも『学ぶ、自学自習する』場へ。身近にある本物から何かを感じ取る能力は学生にも備わっている。その環境を整えて、キャンパスをまるごとミュージアム化できたら……と夢は膨らみますね。各学部にあるであろう、昔の計算機や珍しい動物の標本。そういうものが人の目に触れ始めると、面白くなりそうです。博物館という枠組みにとられず、可能性を探っていくのではないのでしょうか？」

まずは長崎大学にいたいどんなお宝が眠っているのかを知ることが第一歩。各キャンパスに点在する、ミュージアムや資料室に足を運んでみることを始めましょう。

ひめのじゅんいち  
1947年生まれ。長崎大学附属図書館館長、大学院水産・環境科学総合研究科教授。国内最大級の長崎大学古写真コレクションを紹介する講演、執筆活動なども多く、2009年には朝日新聞長崎版の連載をまとめた朝日選書「龍馬が見た長崎」を上梓。

### 文教キャンパス

- P 4 古写真展示室（附属図書館中央図書館1階） 幕末・明治期日本古写真コレクション、グラバー図譜
- P 8 お薬の歴史資料館（薬学部2階） 1865年創業の片峰薬局の貴重な資料
- P 9 下村脩名誉博士顕彰記念館（薬学部柏葉会館1階） ノーベル化学賞受賞の下村博士の関連資料
- P 18 附属薬用植物園（裏門横） 457種類の薬用植物とシーボルトの里帰り植物

### 坂本キャンパス

- P 5 近代医学史料展示室（附属図書館医学分館2階） 医学伝習所時代からの近代医学資料
- P 5 創立150周年ミュージアム（正門横 良順会館1階） 医学部150年の関連資料
- P 7 熱帯医学ミュージアム（熱帯医学研究所1階） 熱帯医学に関する資料・標本
- P 9 原爆医学資料展示室（原爆後障害医療研究施設2号館1階） 原爆医学関連資料

### 片淵キャンパス

- P 6 武藤文庫展示室（附属図書館経済学部分館2階） 武藤長蔵博士のコレクション



幕末から近代にかけて  
海を越え、時を超えて受け継がれていく  
医のこころ

**キュンストレーキ**  
この紙製解剖模型は、被爆当時、鉄筋コンクリートの校舎にあって全焼せず  
に済んだそうです。



# ポンペが伝える 医学への 情熱の源泉

**先** 日來崎したジャーナリストの立花隆氏も一目見たくて立ち寄ったというポンペのキュンストレーキ。この日本最古の紙製解剖模型は、原爆に遭いながら燃え残った半身が、まるで被爆マリア像のように何かを雄弁に物語っています。こちらには、そのほか杉田玄白の「解体新書」をはじめ、幕末に輸入された書物を日本人が描き写した解剖図や治療図、ケンペルやシボルトの学術書など、江戸時代から近代にかけて医療従事者が医学に懸けた情熱が実感できる資料が、二つの部屋に渡って並んでいます。

また、この秋に注目を集めるようなのが、ポードインの後任マンズフェルトの訳官で「眼科要論」の訳者、佐藤方朔氏の旧蔵書です。ご子孫から長崎大学へ寄贈され、十一月一日から医学分館で公開展示を開催します。



『紅夷外科宗伝』  
17世紀の医者、樹林鎮山著。西洋の外科技術を漢文と和文で紹介。西洋の外科書をもとにした挿絵があり、彩色もほどこされています。



**ムラージュ**  
明治から大正にかけて制作された「ムラージュ」は、実際の患者の患部から型取りした蠟製の皮膚疾患模型。

良順会館一階で  
医学史を見渡す

坂本キャンパスの正門を入ってすぐ右手、医学部の創立一五〇周年を機に造られた良順会館の一階にあるこのミュージアム。展示物は近代医学史料展示室と若干異なるものの、照明を抑えた落ち着いた空間が特徴です。医学史年表も見やすく整理され、創立当時のポンペの講義科目と現代のカリキュラムが対比されたパネルなど、興味深い展示もあります。

創立150周年ミュージアム tel.095-819-7007 開館平日9時～17時

## 附属図書館 医学分館 近代医学史料展示室

長崎市坂本1-12-4坂本キャンパス内 医学部分館2階 tel.095-819-7014 見学時間 平日9時～17時

**見** 慣れた山の稜線の下に、洋館が並び、走り抜ける人力車。緊張した面持ちの町娘がいるかと思えば、長崎で活躍した外国人たちが胸を張る——長崎大学が誇る国内最大級の古写真コレクションは、幕末から明治にかけての長崎や全国各地の風物が手に取るようにわかる超一級の資料です。国の登録有形文化財となったポードイン・コレクションをはじめ、約七〇〇〇点がデータ化されており、ウェブ上で見ることができます。さらに展示室まで足を運べば、パノラマ化した幕末の長崎の街並みや、ポードイン・コレクションの精緻な複製本なども閲覧でき、臨場感もひとしお。

また同じ室内には、トーマス・グラバーの次男・倉場富三郎が長崎の画家に肉筆写生させたグラバー図譜（日本西部及び南部魚類図譜）の一部も展示されています。鮮やかな色彩にヒレのスジの本数まで正確に写し取られた図譜は、携わった人々の情熱が伝わる圧倒的な存在感で、その数、実に八〇一枚。戦後に水産学部に寄贈され、現在は附属図書館に保管されています。

# 一枚の写真から 醸し出される 時代の香り



**傘をさす娘**  
頭巾や唐傘など当時の風俗が興味深いですね。今風な美人や凛々しいお侍にもお目にかかれます。



**ステレオビューアー**  
あらかじめ立体視用のカメラで撮影された風景写真が、立体に見えます。



『グラバー図譜』  
1973-1976年に発行された「グラバー図譜」をすべて収録した本。魚の断面図や富三郎が書き込んだメモまで残されています。

坂本龍馬やグラバーが実際に歩いた長崎の街  
現代でも体感できるのは  
長崎にいることの幸運のひとつに数えたい



こちらは一般公開用。図書館の3階には原本が保管されている貴重資料室があり、温度や湿度が24時間管理されています。

## 長崎大学附属図書館 中央図書館 古写真展示室

長崎市文教町1-14文教キャンパス内 中央図書館1階 tel.095-819-2199 見学時間 平日9時～17時  
長崎大学電子化コレクション <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/search/ecolle/>



# 寄生虫から ウイルスまで 熱帯医学最前線

専門家の解説を聞きながら見学したい  
熱帯医学の世界  
地道な研究にまつわる秘話に  
感動と驚愕!



吸血メカニズム  
がわかる  
蚊の模型  
血を吸うための7本のパーツなど細部まで精巧に作り込まれています。

**坂** 本キャンパスの最奥、熱帯医学研究所（略して熱研）の一階に、一般市民も自由に見学できるミュージアムがあるのをご存じですか？虫や動物の標本、寄生虫のホルマリン漬け。予備知識のないまま見るとインパクトの強さに息をのむばかりですが、事前予約すれば専門家による解説もしてもらえ、熱帯医学の奥の深さに好奇心が刺激されます。おびただしい数の蚊の標本も「網で採ったら羽が取れるので、大切に卵から育

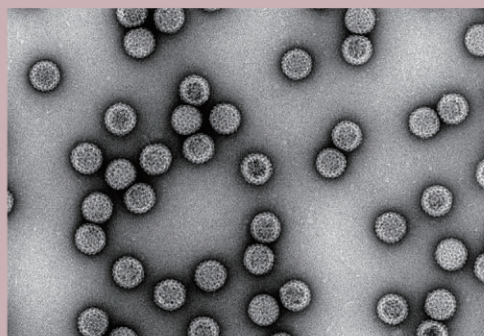
てて一番形が整った状態」のものだと聞いてびっくり！館内には二〇〇九年に東京・上野の国立博物館で行われた企画展「熱帯感染症とたたかう長崎大学」のために作ったパネルや展示物も。本物の細菌標本を見られる顕微鏡や、「BSL-4」施設（もっとも危険度の高い病原体を扱う研究施設。まだ日本では稼働していない）の模型など、感染症研究の現在から将来像までの情報を得ることができるのです。



広い空間にパネル、蚊の標本、顕微鏡などを見やすく配置。隣のフロアには病原体を運ぶ衛生動物の標本が並びます。

## ウイルス類のパネル

鳥インフルエンザやエボラ出血熱、SARSなどのパネル。写真はウエストナイルウイルス。



## 陽圧防護服

これは、世界40か所にある「BSL-4」施設で研究者が着用する陽圧防護服。（使い捨てタイプ）



# 熱帯医学ミュージアム

長崎市坂本1-12-4坂本キャンパス内 熱帯医学研究所1階 tel.095-819-7868 開館平日9時～17時



年代物のひずんだガラスがはめられた陳列棚は、戦前の高商時代の博物館で使用していたもの。歴史を感じます。

# 長崎学の奇才 武藤教授の コレクション

**芥** 川龍之介曰く「長崎の武藤長蔵、盛んに本を送って人を悩ます」。長崎学の三羽ガラスと言われ、経済学部の前身である長崎高等商業学校の名物教授でもあった武藤博士。古書店で貴重な資料を発見すると、支払いのことも考えず握って離さなかったという彼が、稀代の小説家には集めた本の一部を惜しげもなく送っていたというエ



左から菊池寛、芥川龍之介、武藤長蔵、永見徳太郎（長崎の篤志家で多くの文人の長崎滞在の世話をした）。このほか博士は斎藤茂吉とも大変親しかったそうで、文人達との交流資料もあり。

ピソードが面白いですね。心通じるものがあつたのでしょうか。ここ武藤文庫展示室には、博士のコレクションが奥の収蔵庫までぎっしり。アダム・ス

ミスの『国富論』などの洋書から、江戸時代に日本語で書かれたオランダ地図、川原慶賀の『長崎出島之図』、シーボルトの鳴滝塾の様子を伝えるのはこの一枚だけという『鳴滝塾之図』まで、貴重な絵画資料も多くあります。「学者の業績は、著書や論文だけでなく収集した資料も併せて評価すべきだ」と語っていたという博士のこだわりの一端が垣間見られます。



アダム・スミスの『国富論』二巻（初版）  
革張りの装丁が威厳のある美しさ。本は芸術品でもあったんですね。

## オランダ VOCマーク入り 染付平皿

出島からもよく似た絵皿が出土されています。おそらくこれは、輸出されたものが里帰りして日本にもどってきたものを買い求められたのでしょうか。



## 『万国旗』

19世紀初め、オランダ商館長プロムホフが描かせた旗の図譜。見慣れない国の旗ばかり。

数々の逸話の残る名物教授・武藤博士にとって  
歴史のうねりの中の長崎は  
どんな存在だったのでしょうか

# 附属図書館 経済学部分館 武藤文庫展示室

長崎市片淵4-2-1片淵キャンパス内 経済学部分館2階 tel.095-820-6309 見学時間 平日9時～17時



肥

前長崎港船大工町」――  
掛け看板に書かれた所番  
地が面白い！薬学部の二階、  
学生のリフレッシュルームにも  
なっているこちらには、慶応元  
（一八六五年）に創業した長崎の  
老舗薬局の古い看板や薬を調合  
する器具などが、ひっそりと並  
んでいます。寄贈元は片峰薬局  
そう、長崎大学の片峰学長のご  
実家なのです！「懐かしいねえ。  
ああ、この薬箱はまだ匂いが  
残っている。僕は子どものころ  
からよく薬作りを手伝わされて  
いました。中国から輸入された  
漢方薬や、自宅の物干しで干し  
た薬草を、鍋で煎って手で混ぜ  
合わせて臼で挽いて袋詰め。昔  
の薬作りは家族総出の作業で  
すよ。特にこの人壽湯は「何に  
でも効く」とよく売れたなあ」  
精巧な天秤ばかり、オランダ  
渡りの蒸留器。一つ一つから薬  
に関わる人々の真摯な想いが伝  
わってきます。長崎にはこうし  
た老舗の薬局が多く存在し、そ  
れぞれ名を馳せていた時代があ  
ったんですね。



教室のそばにあるので  
見学時は静粛に。1階  
事務室に一声かけて上  
がってください。

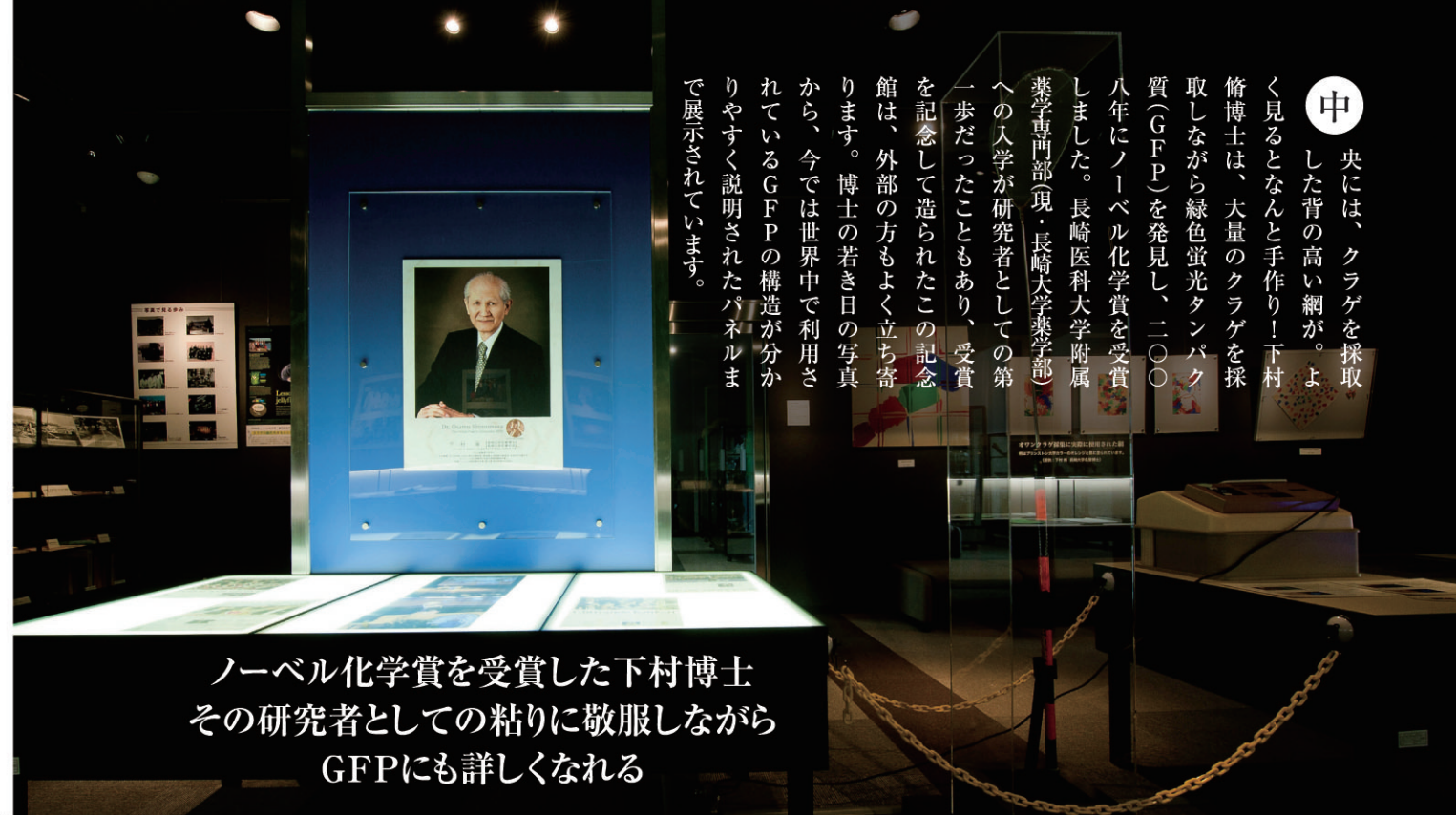
# 長崎のお薬 歴史探訪



キャンパスの中のミュージアム Museums of the campus

中

中央には、クラゲを採取  
した背の高い網が。よ  
く見るとなんと手作り！下村  
脩博士は、大量のクラゲを採  
取しながら緑色蛍光タンパク  
質（GFP）を発見し、二〇〇  
八年にノーベル化学賞を受賞  
しました。長崎医科大学附属  
薬学専門部（現・長崎大学薬学部）  
への入学が研究者としての第  
一步だったこともあり、受賞  
を記念して造られたこの記念  
館は、外部の方もよく立ち寄  
ります。博士の若き日の写真  
から、今では世界中で利用さ  
れているGFPの構造が分か  
りやすく説明されたパネルま  
で展示されています。



ノーベル化学賞を受賞した下村博士  
その研究者としての粘りに敬服しながら  
GFPにも詳しくなれる

## 下村脩名誉博士顕彰記念館

長崎市文教町1-14文教キャンパス内 柏葉会館1階 tel.095-819-2413 開館平日9時～17時

キャンパスの中のミュージアム Museums of the campus

こ

この地からわずか七〇〇  
mの至近距離に落ちた  
原子爆弾。世界で唯一の被爆  
した医学部を持つ長崎大学は、  
被ばく医療について世界の最  
前線を走ってきました。

この展示室は、熱帯医学研  
究所の隣にあります。玄関正面  
十一時二分で針が止まった柱  
時計に導かれるように展示室  
に入ると、まず目に入るのが  
西森一正名誉教授が着ていた  
血染めの白衣。戦後六十六年  
の時を経て茶色く褪せていま  
すが、今も強烈な被爆の実相  
を物語っています。ここでは  
医学の見地から長い年月をか  
けて研究した放射線障害のデ  
ータ解析やグラフが、急性期  
から後障害後期まで段階別に  
パネル展示され、今なお続い  
ている研究の一端を知ること  
ができます。



被爆の実相を医学的見地に絞り込み  
解析し研究したデータ類  
被爆した大学としての  
使命が伝わってきます



場内には永井隆博士の功績や、被爆医  
療に尽力した調来助教授による医療デ  
ータなど、貴重な資料も展示されています。

## 原爆医学資料展示室

長崎市坂本1-12-4坂本キャンパス内 原爆後障害医療研究施設2号館1階 tel.095-819-7123 開館平日9時～16時



片峰学長の子ども時代は  
薬作りと共にありました  
今も残る家内制手工業時代の器具や道具類

1少量の薬でも正確に量  
れる上皿天秤。2遠く大  
阪まで出荷していた片峰  
薬局の人壽湯。ほかにも  
老舗薬局独自の薬が展  
示されています。3寛町  
通りの両側から見えるよ  
う、この看板が2枚吊され  
ていました。4100種類以  
上の生薬の紙が貼られた  
百味薬箱。学長は引き出  
しを開けて匂いを確認し  
ていました。

## お薬の歴史資料館

長崎市文教町1-14文教キャンパス内 薬学部本館2階 tel.095-819-2413 開館平日8時45分～17時半（夏季・年末年始変更あり）





長崎大学附属図書館  
経済学部分館長  
**赤石孝次**  
あかいし たかつぐ  
1957年生まれ。福岡市出身。  
博多祇園山笠に血がたぎる生  
粋の「博多っ子」。長崎大学附  
属図書館経済学部分館長。19  
89年より長崎大学勤務。長崎  
大学経済学部教授。

## 保存と展示、 実は二律背反なんですよ。

実に多彩で貴重な資料が長崎大学にあることが、おわかりいただけたと思います。ここで三人の方にお集まりいただき「長崎大学とミュージアムのこれまでとこれからについて、語っていただきました。」

附属図書館経済学部分館長の赤石孝次分館長、図書館員として長く外部への情報提供をしてきた志波原智美さん、そしてペテランの長崎さるくガイドで長崎検定一級、公民館講座の講師として長大の資料室に市民を案内した経験もある船津義海さんです。

**船津** それにしても、こうして観ると、まさに宝の山ですね。特に古写真などは実に興味深い、あんなに素晴らしいものがひっそりとあったとは……。

**赤石** ありがとうございます。ただ、たくさんある在庫をどれだけ展示に結び付けられて

いるかという点、どうでしょうか。博物館というのは、収集・保存・展示、そして研究の四本柱で成り立っています。中でも保存と展示は二律背反なんです。早い話、展示をすれば資料は傷んでしまいます。

**志波原** はい。例えば図書館が管理する貴重資料の場合、私たち図書館員が取り扱うわけですが、職業柄、本と同じで掛け軸にしても見てほしい、使ってもらいたいという意識は根底にあります。しかし、学芸員ではないので、保存に

関してはそのたびごとに専門家に尋ねながらの作業です。一方で保存環境という意味では、施設面での問題はどうしてもありますね。建物が古く、湿気やカビとの闘いで……。私などは毎日一時間くらいこの作業に取られてしまう。これは各施設の職員の共通の悩みじゃないでしょうか。

### 座談会

# 赤石孝次 志波原智美 船津義海



長崎検定一級保持者 長崎さるくガイド  
医学分館 学術情報サービス班  
長崎大学附属図書館 経済学部分館長

**赤石** だから結局、ハードとソフト、お金と人の問題は大きいですよ。特に長崎大学は人文系の学部がないので史学科などがなく、専門家を内部で養成できないというネットワークがあります。だから例えば絵画を集めるにしても、どういうコンセプトで体系づけて集めるかが見えないまま、今まで来てしまいました。

**志波原** でも我々なりに、なるべく一般の方々にもご利用いただきたいな、という思いはあるんですよ。あえて展示室と貴重資料室を分けたのもそのためです。でも宣伝が下手で伝わりにくい。そこが反省すべきところなんです。

**船津** 正直に言っています、大学の中にこういう博物館的な役割を持つ施設があることを知っている市民は、恐らく非常に少ないでしょう。私自身も最近キャンパスマップを見

て初めて知りました。それにはやはり大学構内という点、どうしても躊躇してしまう。入っただけののかな？と遠慮しいですね。でも中にこれだけのものがあり、一般公開をされているというのが分かれれば足を運びますよ、きっと。私も先日、公民館の勉強会で希望者をお連れして文教キャンパスの中の資料室を何カ所かご案内しました。みなさんとても興味をお持ちでしたよ。

**赤石** かつて博物館は、閉ざされた空間でした。大英博物館がいい例ですが、国の力をバックにかき集めてきた物を知識人にだけ見せてきた。それが段々と一般の人に開かれてきて、近年は施設だけでなく地域全体で産業遺産なども公開して、思いや想像力、イメージを膨らませて周遊させるような試みもされています。そう考えると、長崎大学も「地

域に根差す大学」と銘打つ以上、貴重な財産は市民に公開して活用するのが望ましいでしょう。

**船津** 十年ほど前に、当時長崎大学附属図書館長だった岡林隆敏先生が、主に大正時代の長崎の近代化遺産の研究成果を、収集した古写真のスライドを活用しながら我々のような歴史を学ぶ市民にもお話をしてくださりました。本河内高部水源池など実際に現地と一緒に回って行ったりしてね。それから姫野館長の古写真研究についての講演を聴く機会もあり、大変刺激的でした。長崎全体を見渡したとき、まだまだ知られていない宝がいっぱいあるんだなあ、と実感できましたね。例えばここ数年、長崎市が各家庭に呼び掛けて「おうちい眠るお宝を提供してください」と言っているけれど、あれ、展示した後どうしているんでしょう。段ボール箱にしまい込まれているのかもしれない。もったいない話です。そういうお宝を長崎大学に集めてしまおうか……。

活を再現するとか、長崎らしい空間を演出できるかもしれない。東京では今、大正や昭和の時代の市民の暮らしなどを継承していきたくないかという試みが始まっています。保存と展示だけじゃない、箱ものとしての博物館の形態もどんどん進化している。そこで過ごす楽しさやゆつたりした時間が魅力になるんですね。そうすると観光客も、じゃあもう一泊してちよつと調べてみよう、となる。そこに学芸員がアドバイスすればいい。「あの時代にコレをどうやって？」と疑問が浮かべば、大学の資料室で確認ができる、そんなふうな研究機関として大学が担える役割がありそうです。

**志波原** 少なくとも古写真の場合は、膨大な量のデータベースが蓄積されたので、画像の貸し出しなど、かなり貢献しているという自負はあります。マスコミや映像関係者、研究者などから問い合わせや貸し出し依頼が毎日のようにあり、対応に追われていますから。ここに至るまでの先人の方々のご苦労には頭が下がります。ただ「古写真なら長崎大学へ」というイメージも定着したせいか、一般の方から「うちに

## 博物館の形態がどんどん進化している今 大学が地域にできることは何か

Akaishi Takatsugu × Shibahara Tomomi × Funatsu Yoshiumi

# 長崎大学は「知の貯蔵庫」



医学分館 学術情報サービス班  
**志波原智美**  
しばはら ともみ  
長崎大学附属図書館医学分館勤務。今年春まで中央図書館の学術情報サービス係としてメディア対応をこなした。

## 古写真データベースは、 かなり社会に貢献しています。

**赤石** そうですね、そこに市民の情報や知識が生かされます。眠っている資料を集めるだけじゃない、例えば洋館の中に暮らしていた当時の市民の生

キャンパスの中のミュージアム Museums of the campus





長崎検定一級保持者  
長崎さるくガイド  
**船津義海**  
ふなつ よしうみ  
1937年生まれ。佐世保市出身。  
長崎さるくガイド。長崎さるくでは  
コース選定などにも関わる。「長  
崎検定1級の会」会長。長崎市  
西公民館「町歩き講座」講師。

**私はこれから極力、  
大学の中に行つてみたいと思います。**

もいつの時代のか分からない  
古写真があるんだけど」とい  
うご連絡やご相談をいただく  
ことがあるのですが、難しい  
です。寄贈を引き受けた場合は、

がちゃんと想像できて体験で  
きるような一角も欲しい。そ  
ういう街づくりのビジョンが、  
今はまだないのではないでし  
ょうか。

利用条件や肖像権などの問題  
をクリアしていく作業も責任  
を伴います。施設の問題もそ  
うですが、マンパワーがあれ  
ばなあというのが本音ですね。

**赤石** 貴重資料の一般公開に  
しても「ここにこういうものが  
あるなんて知らなかった」じゃ  
なくて、子どものころから学  
校単位で足を運ぶことで、衆  
しさを知り、どこに何がある  
かを知っている、だからいつ

**赤石** 私など、もともと博多  
の人間ですが、長崎に来たこ  
ろに残っていた街並みはどん  
どん壊されてしまい、後には  
石碑一本立っているだけ。そ  
れがとてもしョックです。「○  
○跡」と言われても、まるで  
イメージできない。

でも興味を持ったらふらりと  
足を運べる。そんな形が望ま  
しい。欧米などはその辺がと  
ても進んでいます。日本はま  
だまだ博物館に行くのも大学  
に行くのも、袴<sup>かまど</sup>つけて……と  
いう感じ。長崎も平和教育は  
盛んだけれど、歴史や文化教  
育の実態はかなり厳しいですよ。

**船津** やはり市や県など長崎  
全体が、この都市の財産をど  
う生かしていくかという視点  
を持つ必要性を強く感じますね。  
一カ所一カ所の「点」じゃない、  
「面」としてとらえていく視  
点です。そしてかつての本物

**船津** 私はこれから極力、大  
学の中に行つてみたいと思っ  
ています。  
**志波原** はい、いつでもいら

# 「私たちの街の 文化資産って何だろう」 という問いから始まる連携



座談会を行ったのは、片淵キ  
ャンパスの瓊林会館。まるごと  
歴史博物館のような、クラ  
シックな佇まいです。

してください！ 長大の図書  
館は三カ所とも入り口にゲー  
トを設けて入りやすいと言わ  
れるのですが、勉強スペース  
を学生優先にしたいだけで、  
むしろ一般の方にはどんな  
来ていただき生涯学習に役立

てていただきたいです。  
**船津** 大学側も積極的に外に  
出て市民の目に触れるような  
企画をされるとういいますね。  
それを重ねることで大学と市  
民の間の距離は縮まってく  
るんじゃないでしょうか。

**赤石** 先日も新聞報道されて  
いましたが、東日本大震災で  
地域の文化資産が被災した中で、  
専門家と大学と市民やNPO  
などが文化資産の救出・保全  
を目的に地域ネットワークを  
作り上げ連携して解決しよう  
という取り組みがなされてい  
ます。これらは、非常時だけ  
でなく、普段からの情報伝達・  
集約・共有が大切です。つま  
り大学も、閉じた状態でミュ  
ージアム構想とか言ってもあ  
まり意味がない。上から目線  
で語るなんてとんでもない。  
行政だけに要望する時代でも  
ない。もっと開かれた中でつ  
ながっていった方がいいのです。  
「自分たちの街の文化資産っ  
て何だろう」という問いから  
始まり、市民や行政との連携  
の中で、我々長崎大学も有機  
的に手を結びながら、大切な「何  
か」を次の世代に受け渡して  
いきたいですね。